

平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業  
「HIV 感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法の開発  
ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究」班  
分担研究報告書

研究分担課題名：HIV をはじめとする性感染症と妊娠に関する情報の普及啓発法の開発

研究分担者：桃原 祥人 東京都立大塚病院産婦人科部長  
研究協力者：塚原 優己 国立研究開発法人国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター  
産科・診療部長  
渡邊 英恵 独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター看護部・副看護師長  
羽柴 知恵子 独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター外来・副看護師長  
廣瀬 紀子 地方独立行政法人機構山梨県立北病院医療安全管理室  
佐野 貴子 神奈川県衛生研究所 微生物部・主任研究員  
鈴木 ひとみ 国立研究開発法人国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発セン  
ター・コーディネーターナース  
長與 由紀子 独立行政法人国立病院機構九州医療センターAIDS/HIV 総合治療セン  
ター・HIV 専任看護師  
谷村 憲司 神戸大学大学院医学研究科外科系講座産科婦人科学分野講師  
森實 真由美 神戸大学大学院医学研究科外科系講座産科婦人科学分野講師  
木内 英 東京都立大塚病院小児科医員

研究要旨：

当研究分担班の研究目的並びに方法は、市民公開講座の企画や他の団体や機関によるセミナーとの連携を行い、研究成果を広く周知するとともに、SNS を用いて性感染症全般に関する情報発信を行う。また、妊婦の HIV スクリーニング検査や妊婦健診の重要性及び各種性感染症に関する情報の普及啓発を目的に、日本産婦人科感染症学会の協力のもと、「HIV や梅毒をはじめとする性感染症に関する小冊子」の刊行を目指す。

今年度は

第 25 回 AIDS 文化フォーラム in 横浜（2018 年 8 月 3 日（金）～5 日（日）、会場；かながわ県民センター）に参加した。一般市民参加型の公開講座を開催し、市民の HIV 感染妊娠に関する認識と知識の向上を目指した。

また、医療従事者への啓発として国立病院機構関門医療センターにて職員向け講演「HIV 感染妊婦の経膈分娩について（HIV/AIDS の現状）」を行った（11 月 15 日）。

SNS による啓発としては HIV をはじめとする性感染症全般に関する情報発信目的の Twitter アカウント（<https://twitter.com/HIVboshi>）を立ち上げた。

「HIV や梅毒をはじめとする性感染症に関する小冊子」に関しては、編集方針や配布経路の検討を行った。

A. 研究目的

国民に根強く残る HIV/AIDS への偏見を解消し、

HIV 母子感染のみならず、性感染症全般と、その妊娠への影響に対する国民の理解向上および予

防啓発に寄与する。

## B.研究方法

行政や HIV 関連諸団体との連携を密にし、市民参加型の公開講座などで、当研究班の研究成果を広く国民に周知することにより、国民の HIV 感染妊娠及び性感染症全般に関する認識と知識の向上を図る。当研究分担班から国民に発信する情報の主眼は、①性感染症全般に関する現状及び予防策の紹介、②性感染症のひとつである HIV 感染症の現状と予防策の紹介、③HIV 母子感染の現状と予防策の紹介などである。

具体的な活動としては、例年全国各地域（横浜、京都）で行われている AIDS 文化フォーラムへの参加を予定しているほか、SNS を用いて性感染症全般に関する情報発信を行う。また、妊婦の HIV スクリーニング検査や妊婦健診の重要性及び各種性感染症に関する情報の普及啓発を目的に、日本産婦人科感染症学会の協力のもと、「HIV や梅毒をはじめとする性感染症に関する小冊子」の刊行を目指す。

（倫理面への配慮）

講演会の実施、SNS での投稿内容の作成に際しては、HIV 陽性者の心情に十分配慮した。

## C.研究結果

### 第 25 回 AIDS 文化フォーラム in 横浜（2018 年 8 月 5 日（日）、会場；かながわ県民センター）「HIV 感染と妊娠・出産」：参加者 11 名

研究班発足から間もなく、パンフレットへの出展の記載がなかったこともあり参加者はやや少数となった。（同じく発足の時期の関係から、例年参加している佐賀の文化フォーラムには参加できなかった。）日本における HIV 感染妊娠の現状について研究班の調査結果について報告した。HIV 感染妊娠は年間 40 例前後で推移しており、近年では HIV 感染判明後の妊娠が増加傾向にある。日本においては、母子感染予防対策（①HIV スクリーニングによる感染の診断、②抗 HIV 療法、③選択的帝王切開術に

よる分娩、④帝王切開時の AZT 点滴、⑤出生児への AZT シロップ投与、⑥人工栄養）を完全に実施すれば、母子感染をほぼ防止できるようになっている。実際 2000 年以降、すべての感染予防対策が確実の行われた症例から HIV 母子感染が成立したという報告はない。しかし、医療機関への適切なアクセスができなかった分娩例においては HIV 母子感染が散見されている。諸外国においては HIV RNA 量が検出感度未満の場合は経膈分娩を推奨する流れになっており、日本においても帝王切開の必要性について議論されていることなどを報告した。参加者とは報告データや HIV 感染者の妊娠・出産に関してディスカッションを行った。アンケート結果では興味深い内容であったとの感想が多くあった。

第 8 回 AIDS 文化フォーラム in 京都（2018 年 9 月 30 日）も同様の内容で出展予定だったが台風のため中止となった

（<http://hiv-kyoto.com/latestForum/index.html>）。

### 国立病院機構関門医療センター職員向け講演

「HIV 感染妊婦の経膈分娩について（HIV/AIDS の現状）」（2018 年 11 月 15 日（木））参加者約 30 名

HIV/AIDS 研究・診療の歴史、海外と日本の HIV 母子感染予防対策の比較、日本における HIV 感染妊娠の現状について、本研究班作成のガイドラインの提示と経膈分娩の可能性について講演を行った。経膈分娩受け入れ態勢の充実に何が必要か、HIV 感染者が日本で減少傾向とならない理由などが議論になった。

### SNS による啓発（資料 1）

Twitter アカウント「HIV 母子感染予防研究班」（<https://twitter.com/HIVboshi>）を立ち上げた。現在、bot（自動投稿）により HIV の一般的知識、母子感染と他の性感染症（主に梅毒）に関する啓発内容 12 項目を定期的に投稿している。2019 年 1 月 22 日現在、フォロワー数 95 名で日々増加傾向にある。妊娠初期検査で HIV 陰

性だった妊婦からの母子感染が 2000 年以降 6 例発生しているという投稿には 100 件以上のリツイートがついており、当アカウント宛のコメントも活発に行われている。

#### 「HIV や梅毒をはじめとする性感染症に関する小冊子」

当分担当のメーリングリストを作成し編集検討体制を構築した。自治体、保健所などで一般市民が手に取りやすい媒体である必要があることから、A5 判 20 ページ前後および／あるいは A4 三つ折りなどでイラストを多用した内容とし、QR コードなどで Web との連携を図った内容とする方針とした。項目は HIV、HTLV-I、B・C 型肝炎、トキソプラズマ、サイトメガロウイルス、風疹、ヘルペス、梅毒、淋菌、クラミジア、パルボウイルスなどとする。

#### D. 考察

今年度の AIDS 文化フォーラム参加は 1 か所のみで、参加人数も少数にとどまった。参加者の反応は良好であり、来年度は当初より参加に向けて準備可能であることから、従来の佐賀、横浜、京都の 3 か所に加え、名古屋、陸前高田のフォーラムへも参加を検討したい。これらの取り組みにより参加人数の増加が期待でき、参加者を經由して発表内容が周囲にも伝わることで、正しい知識や予防意識の普及につながると考えられる。

また、固定した地域での定期開催イベント以外にも当研究班独自の市民公開講座、また、HIV/AIDS に特化したイベントとは別に大学の学園祭などへの参加もこれから生殖年齢を迎える若者への啓発活動として重要であり、検討してゆきたい。

性感染症に関する小冊子は一般市民が容易に手にできる形で作成することにより自治体や保健所での啓発資料として活用が期待されるほか、AIDS 文化フォーラムや学園祭などでの配布資料としての活用も期待でき、早期の完成を目指したい。配布経路に関してはさらに検

討が必要である。

#### E. 結論

国民への HIV 母子感染予防及び一般性感染症に関する認識、知識の向上を目的として今年度第 25 回 AIDS 文化フォーラム in 横浜 (2018 年 8 月 3 日 (金) ~ 5 日 (日)、会場 ; かながわ県民センター) に参加するほか医療従事者への啓発として国立病院機構関門医療センターにて職員向け講演「HIV 感染妊婦の経膈分娩について (HIV/AIDS の現状)」(11 月 15 日 (木)) を行い一定の成果を得た。

HIV をはじめとする性感染症全般に関する情報発信目的の Twitter アカウント (<https://twitter.com/HIVboshi>) を立ち上げフォロワーは日々増加している。

「HIV や梅毒をはじめとする性感染症に関する小冊子」の編集方針や配布経路の検討を行った。

#### G. 研究業績

論文

(欧文)

1. Tanimura K, Yamada H. Potential Biomarkers for Predicting Congenital Cytomegalovirus Infection. *Int J Mol Sci.* 2018 ; 19 pii: E3760. doi: 10.3390/ijms19123760. Review.
2. Ikuta T, Fujioka K, Sato Y, Ashina M, Fukushima S, Ohyama S, Okubo S, Yamana K, Morizane M, Tanimura K, Deguchi M, Iijima K, Morioka I, Yamada H. A Case of Congenital Complete Atrioventricular Block Treated with Transdermal Tulobuterol. *Kobe J Med Sci.* 2018 ; 63 : E109-E112.
3. Yamada H, Tanimura K, Tairaku S, Morioka I, Deguchi M, Morizane M, Nagamata S, Ozaki K, Ebina Y, Minematsu T. Clinical factor associated with congenital cytomegalovirus

infection in pregnant women with non-primary infection. J Infect Chemother. 2018 ; 24 : 702-706 doi: 10.1016/j.jiac.2018.04.010.

(和文)

1. 廣瀬 紀子. 【研修ですぐに使える!初心者さんのための「どこが間違っている?」〇×クイズ best 15】 標準予防策と感染経路別予防策. INFECTION CONTROL、2018 ; 27 : 432-439
2. 谷村 憲司、山田 秀人. 【産婦人科感染症の診断・管理-その秘訣とピットフォール】 母子感染症 サイトメガロウイルス. 臨床婦人科産科、2018 ; 72 : 64-70
3. 森實 真由美. 先天梅毒の予防. 産婦人科の進歩、2018 ; 70 : 371-372

学会発表

(国内)

1. 杉浦 敦、中西 美紗緒、市田 宏司、箕浦 茂樹、松田 秀雄、高野 政志、桃原 祥人、佐久本 薫、太田 寛、石橋 理子、喜多 恒和 : 本邦の医療施設において HIV 感染妊娠の経膈分娩は可能か?. 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会. 宮城、2018.05
2. 山田 里佳、喜多 恒和、谷口 晴記、井上 孝実、千田 時弘、大里 和広、鳥谷部 邦明、中西 豊、定月 みゆき、白野 倫徳、塚原 優己、吉野 直人、杉浦 敦、田中 瑞恵、蓮尾 泰之 : わが国独自の HIV 母子感染予防対策ガイドラインの策定について. 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会. 宮城、2018.05
3. 杉浦 敦、竹田 善紀、市田 宏司、中西 美紗緒、箕浦 茂樹、松田 秀雄、高野 政志、桃原 祥人、小林 裕幸、佐久本 薫、太田 寛、石橋 理子、藤田 綾、高橋 尚子、吉野 直人、山田 里佳、定月 みゆき、田中 瑞恵、外川 正生、喜多 恒和 : HIV 感染初産婦における分娩様式に関する検討. 第 35 回日本産婦人科感染症学会学術集会. 岐阜、2018.05
4. 竹田 善紀、杉浦 敦、市田 宏司、中西 美紗緒、箕浦 茂樹、松田 秀雄、高野 政志、桃原 祥人、小林 裕幸、佐久本 薫、太田 寛、石橋 理子、藤田 綾、榎本 美喜子、高橋 尚子、吉野 直人、山田 里佳、定月 みゆき、田中 瑞恵、外川 正生、喜多 恒和 : 近年における HIV 感染判明後妊娠の現状. 第 35 回日本産婦人科感染症学会学術集会. 岐阜、2018.05
5. 大里 和広、吉野 直人、伊藤 由子、高橋 尚子、杉浦 敦、谷口 晴記、山田 里佳、桃原 祥人、田中 瑞恵、定月 みゆき、戸谷 良造、稲葉 憲之、和田 裕一、塚原 優己、喜多 恒和 : 未受診妊婦への HIV スクリーニングの現状-妊婦 HIV スクリーニング検査率に関する全国調査. 第 35 回日本産婦人科感染症学会学術集会. 岐阜、2018.05
6. 吉野 直人、伊藤 由子、大里 和広、高橋 尚子、杉浦 敦、田中 瑞恵、谷口 晴記、山田 里佳、桃原 祥人、定月 みゆき、戸谷 良造、稲葉 憲之、和田 裕一、塚原 優己、喜多 恒和 : 妊婦 HIV スクリーニング検査実施率の変遷と背景. 第 35 回日本産婦人科感染症学会学術集会. 岐阜、2018.05
7. 笹川 勇樹、谷村 憲司、山名 哲司、森實 真由美、出口 雅士、森岡 一朗、山田 秀人 : HBV 妊婦スクリーニングと母子感染予防の前向き研究. 第 35 回日本産婦人科感染症学会学術集会. 岐阜、2018.05
8. 内田 明子、谷村 憲司、西川 鑑、清水 亜由美、施 裕徳、田中 恵里加、森實 真由美、出口 雅士、蝦名 康彦、森岡 一朗、山田 秀人 : トキソプラズマ抗体妊婦スクリーニングに関する前向きコホート研究. 第 35 回日本産婦人科感染症学会学術集会. 岐阜、2018.05
9. 谷村 憲司、内田 明子、今福 仁美、森實 真

- 由美、出口 雅士、藤岡 一路、森岡 一郎、峰松 俊夫、山田 秀人：症候性先天性サイトメガロウイルス感染症に対する胎児治療と新生児治療の有効性. 第 35 回日本産婦人科感染症学会学術集会. 岐阜、2018.05
10. 森實 真由美、谷村 憲司、今福 仁美、白川 得朗、上中 美月、笹川 勇樹、島岡 昌生、山田 秀人：兵庫県における女性梅毒症例の動向と課題. 第 35 回日本産婦人科感染症学会学術集会. 岐阜、2018.05
  11. 皆川 洋子、伊藤 雅、北川 和寛、濱崎 光宏、中田 恵子、高橋 雅輝、峯岸 俊貴、長谷川 道弥、新開 敬行、板持 雅恵、木田 浩司、佐野 貴子、吉田 弘、近藤 真規子、小澤 広規、豊嶋 千俊、吉富 秀亮、西澤 香織：感染症発生動向調査における病原ウイルス検査への外部精度調査(External Quality Assurance:EQA)導入. 第 59 回日本臨床ウイルス学会. 埼玉、2018.06
  12. 佐野 貴子、嘉手苺 将、渡邊 寿美、近藤 真規子、黒木 俊郎：神奈川県における流行性筋痛症事例からのヒトパレコウイルス 3 型の検出. 第 59 回日本臨床ウイルス学会. 埼玉、2018.06
  13. 木所 稔、中田 恵子、佐野 貴子、成相 絵里、後藤 慶子、稲田 眞知、藤谷 美沙子、広川 智香、斎藤 博之、柴田 ちひろ、伊藤 雅、皆川 洋子、竹田 誠、菅 秀：2016 年～2017 年に国内で流行したムンプスウイルスの分子系統学的解析. 第 59 回日本臨床ウイルス学会. 埼玉、2018.06
  14. 笹川 勇樹、谷村 憲司、山名 哲司、森實 真由美、出口 雅士、森岡 一郎、山田 秀人：妊婦の B 型肝炎スクリーニングと垂直感染予防. 第 138 回近畿産科婦人科学会学術集会. 大阪、2018.06
  15. 辻 満、砂倉 麻央、浅野 真、福岡 真弓、高橋 暁子、川上 香織、岩田 みさ子、桃原 祥人：当院での過去 4 年間における梅毒合併妊娠 8 例の検討. 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 東京、2018.07
  16. 竹田 善紀、杉浦 敦、市田 宏司、中西 美紗緒、箕浦 茂樹、松田 秀雄、高野 政志、桃原 祥人、佐久本 薫、石橋 理子、吉野 直人、喜多 恒和：近年の HIV 母子感染例に関する臨床的・疫学的検討. 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 東京、2018.07
  17. 谷村 憲司、内田 明子、今福 仁美、森實 真由美、出口 雅士、藤岡 一路、森岡 一郎、峰松 俊夫、山田 秀人：症候性の先天性サイトメガロウイルス感染症に対する胎児治療と新生児治療. 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 東京、2018.07
  18. 上中 美月、森實 真由美、谷村 憲司、出口 雅士、森岡 一郎、山田 秀人：先天性サイトメガロウイルス感染の胎盤病理. 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 東京、2018.07
  19. 笹川 勇樹、谷村 憲司、山名 哲司、森實 真由美、出口 雅士、森岡 一郎、山田 秀人：妊婦の B 型肝炎スクリーニングと垂直感染予防. 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 東京、2018.07
  20. 森實 真由美、谷村 憲司、今福 仁美、白川 得朗、上中 美月、笹川 勇樹、島岡 昌生、山田 秀人：兵庫県における女性の梅毒症例の動向と課題. 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 東京、2018.07
  21. 福嶋 祥代、森岡 一郎、芦名 満理子、生田 寿彦、大山 正平、大久保 沙紀、山名 啓司、藤岡 一路、森實 真由美、出口 雅士、谷村 憲司、船越 徹、大橋 正伸、飯島 一誠、山田 秀人：尿サイトメガロウイルス(CMV)スクリーニングで同定した先天性 CMV 感染児の前方視的観察研究. 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 東京、2018.07
  22. 福嶋 祥代、森岡 一郎、芦名 満理子、生田 寿彦、大山 正平、大久保 沙紀、山名 啓司、

藤岡 一路、森實 真由美、出口 雅士、谷村 憲司、飯島 一誠、山田 秀人：症候性先天性 CMV 感染児の 1 歳 6 ヶ月時点での DQ<70 と関連する周産期リスク因子の後方視的検討. 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 東京、2018.07

23. 大山 正平、森岡 一朗、福嶋 祥代、芦名 満理子、生田 寿彦、大久保 沙紀、山名 啓司、藤岡 一路、森實 真由美、出口 雅士、谷村 憲司、飯島 一誠、山田 秀人：当院における先天性トキソプラズマ感染症の発生に関する臨床前向き研究. 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 東京、2018.07

24. 生田 寿彦、芦名 満理子、大山 正平、福嶋 祥代、大久保 沙紀、山名 啓司、藤岡 一路、森實 真由美、飯島 一誠、森岡 一朗、山田 秀人：Treponema pallidum 抗体陽性母体から出生し先天梅毒が疑われた新生児の 2 例. 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 東京、2018.07

#### H.知的財産権の出願・登録状況

- 1.特許取得 なし
- 2.実用新案登録 なし
- 3.その他 なし

[資料 1]

HIV母子感染予防研究会 (@HIVbooshi)

赤ちゃんの未来のために  
あなたの未来のために

ツイート 554   フォロー 53   フォロワー 120   いいね 4   [フォローする](#)

**HIV母子感染予防研究会**  
@HIVbooshi  
厚生労働科学研究費補助金「エイズ対策政策研究事業」(HIV感染症の経路・伝播・予防に関する分子疫学・コホートの調査研究と情報の普及啓発)ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究(代表研究者 喜多 愛知)です。現在の活動内容や、性感染症と妊婦についての知

ツイート   ツイートと返信

変更されたツイート

HIV母子感染予防研究会 @HIVbooshi · 2018年12月6日  
妊婦初期に受けるHIV検査で陽性だった場合、母子感染予防の対策は  
①妊婦中からのHIV薬を服用する  
②陣痛が始まる前に帝王切開を行う  
③出生後にHIV薬を飲ませる  
④母乳を避けることです。  
日本では帝王切開が推奨されていますが、場合によっては経産分娩を行う場合も

Twitterを使ってみよう  
登録してあなただけのタイムラインを作りましょう  
[アカウント作成](#)

世界中のトレンド

HIV母子感染予防研究会 @HIVbooshi · 3月1日  
梅毒が20代女性に急増大中！「自分だけは大丈夫」と考えてはいけない理由 (ダイヤモンド・オンライン) - Yahoo!ニュース [headlines.yahoo.co.jp/article?i=2018](#) - Yahoo!NewsTopics

HIV母子感染予防研究会 @HIVbooshi · 3月1日  
初期HIV検査が陽性だった妊婦さんからの母子感染が2000年以降6割発生しています。HIV感染高リスクの地域などに限って妊婦後期に再度スクリーニング検査を行う対策が行われている国もありますが、日本では取り込みは困難です。夫からの感染が主体と考えられ、男性への検査も重要ですね。

HIV母子感染予防研究会 @HIVbooshi · 2月28日  
「ゲノム編集ベビー」国際会議が非難声明「無責任」 | NHKニュース [www3.nhk.or.jp/news/html/2018...">www3.nhk.or.jp/news/html/2018...](#)  
「エイズ予防にゲノム編集が必要ない」  
「感染者が出生するためにゲノム編集が必要だという誤解が生まれないよう正確な情報提供を行いたい」  
私たちの研究用の使命でもあります。

HIV母子感染予防研究会 @HIVbooshi · 3月28日  
中国で「HIV免疫を持つ双子が誕生」と報道 ゲノム編集：朝日新聞デジタル [asahi.com/articles/ASL...">asahi.com/articles/ASL...](#)  
まず倫理面で異論と見なされるを得ませんが、HIVに対する免疫自体の値により性も変わるのでしよう。